

# 平成21年度 府中市立あさひ苑 事業報告書要約

平成21年度の概況

平成21年度の課題

<p>・平成21年度は前年度(20年度)の一階改修工事終了による生活環境の拡張を受け、通所事業の活動時間の変更や食事の配膳方法など、利用者の活動時間内の過ごし方の改善に努めた。</p> <p>・今年度より受託した地域包括支援センターについては地域の総合相談機関としての役割を果たす事と、地域との関係づくりもさらに深めることができた。</p> <p>・ホームの利用者についてもホーム喫茶利用時、ゆっくり過ごす事に加え、数多くのボランティアの協力のもとでのミニコンサートの活動も楽しみながらの利用につなげた。</p> <p>1. 組織作り 事業全体運営体制を各事業ごとの責任体制を明確にし、サービス提供者としての責任と、健全性や透明性についても強化推進に努め、施設全体が地域福祉の拠点としての役割を果たせる総合力を高めるための組織強化を図った。</p> <p>2. 人材育成 利用者サービスの向上を目指し、職員一人一人の能力のレベルアップを図り、OJT中心の職員育成の基に計画的な研修の充実に努めた。平成21年度は雇用状況が安定し、退職者が無かった事も有り、組織的な職員育成に結び付いた。</p> <p>3. サービス向上 利用者の意向や希望を尊重し、その方らしく過ごせる個別ケアの推進に取組み、法人の理念や指針に近づく体制がとれた。 利用者にとっての楽しみである外出活動計画については、4月より新型インフルエンザの発生、そして全国的な流行に対する安全対策を行う中、家族の理解を得たうえで、ほとんど中止や変更で対応した。 また予防接種についても、当初ワクチンの確保等が危惧されたが利用者職員については万全な対策がとれた。</p> <p>4. リスク管理 介護事故や苦情対応については年度内での大きな問題につながるような事も無く、職員対応の範囲に収まった。 オンブズパーソンと介護相談員については介護相談員が府中市からの派遣となり、施設に対する貴重なご意見も得られ、職員育成研修等に役立たせる事ができた。</p> <p>5. 地域包括支援センター 府中市より、今年度から受託した地域包括支援センターの事業も従前の支援センターの実績を引き継ぎ活動した。地域との関係づくりもさらに深めることができた。</p> <p>6. 感染症予防対策 新型インフルエンザの流行もあったが、施設内では利用者および職員に流行することはなく、また、近隣施設で感染が確認され流行したノロウイルスの感染に対しても、日ごろの予防対策の成果もあり、影響を受けずに予防することができた。</p> <p>1. ホーム 日に日に進む高齢虚弱化に対しても、安心して過ごせ、豊かな生活が継続できるような場所を創出し、より具体的な個別援助の適う介護プランを作成して支援する。介護業務の基本となる言葉づかいなど、初心にたち帰り、慣れから生ずる油断や甘さを見直し、利用者が主人公として過ごせるように業務内容を改める。介護だけでなく看護や訓練食事といった共通業務が一体となり、連携して一人一人の利用者に寄り添ったケアが充実できるように取り組む。</p> <p>2. センター(通所他) 入浴介助や送迎業務等の事故防止に努め、安全第一を心掛け業務の基本をしっかりと身につける。介護予防、推進教室の運営については、地域包括支援センター介護予防コーディネーターと連携して、地域のニーズに対して過不足の無いサービスの質を確保する。</p> <p>3. 支援センター 地域包括支援センターを中心とし、地域の中の総合相談機関の拠点として、地域に安心と助け合いを広めていくための活動をさらに強化する。中でも、地区民生委員、自治会、老人会などとの連携はより一層の充実が目指される。地域にある、居宅支援事業所や介護保険サービス事業所なども情報を密に交換して、住民サービスが適切に提供されるように支援していく。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		サービス利用・提供状況	平成21年度事業計画の執行評価
運営・管理	事務局担当	1 予算の計画的な執行・管理及び法人の運営指標に基づく適切な財務管理を目指した。 経常収支の予算執行状況等は月次経営会議にて報告・協議し、財務管理は月次報告書を活用した。 2 介護保険請求業務は、サービス情報の共有化が図られたことにより、事務処理の円滑化と効率化が進んだ。 3 適正な経理処理を行うために経理規程等の規程を遵守し、また研修により事務職員の知識向上も図られた。 4 労務管理は、就業規則・給与規程等を遵守し公正化と徹底化を図った。 5 メンタルヘルス対策は、産業医の指導のもとで各部署が協力して取り組んだ。	1 事務局集約業務の成果。 月次経営会議の充実、月次報告の活用。 2 事務局集約業務の成果とあさひ苑職員の連携。 3 事務局研修、外部会計指導の成果。 4 事務局集約業務の成果。 5 産業医と安全衛生委員会の連携。
	サービス向上	1 ホーム、通所介護に加えて、訪問介護を含め、3事業所で東京都福祉サービス第三者評価を受審した。 2 介護サービス情報の公表については、ホーム、通所介護、居宅、訪問介護の4事業所が受審した。 3 実習生については大学、法務省、教育委員会、府中市などから68名、延べ246名を受け入れた。また、中学生の福祉体験を中学校2校より6名、延べ8名を受け入れた。 4 ボランティアについては、レクリエーション、喫茶、リネン、手芸、園芸等年間延べ2,023名の受け入れを行った。 5 職員研修について、外部研修および法人研修のほか、研修委員会を組織し、施設内研修の体系化を行った。	1 東京都福祉サービス第三者評価、情報公表の受審査、法人サービス自己評価により、サービス向上のための取り組むべき課題が明確となった。 2 延べ2,000人を超えるボランティアの協力のもとに、利用者が生活の楽しみを得た。
支援センター	在宅	年間相談実人数796人。年間相談総件数3,563回(来所207回電話1,768回訪問1,429回その他159回)。認定調査年間総件数448件(更新・区変等)、高齢者地域支援連絡会12回開催。 緊急ショート38件。家族介護者教室19回(認知症家族支援のための介護者サロン9回含む)。担当地区ケア会議16回(うち民生委員8回居宅8回)。担当地区ケア会議事例検討会32回。介護予防プラン総数1,011件(他居宅206件含む)。住宅改修関連のべ59件(内訳:非該当自立支援2件・設備給付12件・介護給付45件)。介護予防健診27回479人。介護予防教室41回参加数延べ387人。介護予防自主グループ支援4グループ48回。	1 包括業務委託を受け総合相談・都営住宅個別訪問の実施、訪問食事・見守り配食を通し実態把握を進めた。介護予防支援の取り組みと、円滑な事業の遂行を実施した。 2 独居高齢者のみの世帯や認知症高齢者に対し積極的な介入支援を行った。
	居宅	居宅支援ケアプラン年間総数2,688件(介護1/546、介護2/811、介護3/643、介護4/444、介護5/244) 予防居宅支援プラン受託年間総数368件(支援1/85、支援2/283)	あさひ包括・緑在支と連携し困難ケースを中心に積極的に受け、協働しながら支援に努めた。
データ	デイサービス	デイサービスの稼働率は76.2%、1日の平均利用者数は45.7名となる。総延べ人数14,196名(通所介護10,610名・予防通所1,902名・認知症対応型1,684名)。今年度の新規利用者数は過去最高の73名だったが、相談員を係長業務と分けて動いたことで曜日追加・変更などを含めると合計118名の調整を行うことができた。利用者増の理由としては、活動内容を午前午後で明確な内容にすることで魅力あるサービスとなったことがあげられる。廃止利用者も多く、70件にのぼる。地域デイ・推進事業は、今年度より1会場1担当制を廃止し、チームでのシフト担当として実践した。各会場のサービスの平準化及び問題点の共有ができたことで、チームとしての連携の強化に繋がった。 地域デイ登録者数110名。延べ人数4,428名(多磨町公会堂604名・人見研修所467名・朝日公会堂町848名・紅葉丘文化センター786名・白糸台文化センター726名・生涯学習センター265名・緑苑火曜日383名・緑苑木曜日349名)。推進事業年間20教室。転倒予防16教室延1,862名・尿失禁予防2教室延461名・認知症予防1教室148名・口腔栄養1教室175名。合計2,646名が参加した。	運営規定の基本方針の意味を利用者一人一人にあてはめ考えていくことを主眼に置き、計画を立てた。しかし、現行の個別計画書のあり方に課題があることや、目標設定が抽象的だったため、意味の理解には多くの課題を残す形となった。利用者対応では、受け入れ・廃止の件数も多く関係機関と連携し、関わることができた。推進事業の開始準備など、チーム内連携の向上で協力し行うことができ、利用者拡大へと繋がった。
	ヘルプ	第1、第5地区で効率的な人員配置でエリアを越えたサービスを提供した。利用者数は月平均94名(昨年104名)と減少している。又援助回数12,905、援助時間12,478も共に10%前後減少している。援助時間については1.5時間以上の援助が、身体介護20%・生活援助15%と減少しており、施設入所の増加、適切な介護プランの結果と思われる。予防介護は年間利用者が要支援130名(昨年45名)要支援2・108名(昨年107名)、援助回数744(昨年836)援助時間807(昨年919.5)と昨年度よりも減少している。今年度も暫定プラン、困難ケースに積極的に取り組んだ。	必要な書類を明確化し全員で把握し記録した。書類作成が追いつかない部分もあり、来年度更に書類整備を行うという課題を得た。適切なプラン提供の為に他部署と連携し情報共有することで、利用者把握に努めた。
ホム	入所	1 [21年度]平均在籍数93.1人/日 入所者数31人 退所者数29人 稼働率93.1% 平均介護度4.0 21年度は前年度と比べ入・退所数はほぼ変わらず、平均介護度はわずかに下がったが通院数が231件と54件増え入院数はほぼ変わらない状況だった。高齢化、虚弱化へ進む中で体調の変化や疾患への対応が求められた。また、家族・看護との相談のうえの早めの対応も通院が増加した理由のひとつと考えられる。 2 定期的なユニット会議を開き、状態変化に応じたケアプランの変更、マニュアルへの加筆・修正を行い援助に繋がった。 3 新型インフルエンザの外部の流行に伴い外出活動を自粛したが、ごみを避けての外出活動や、ボランティアの受け入れを積極的に行い、利用者の状態に合わせた様々な活動をおこなうことができた。 4 新人育成は、比較的職員状況の安定した3Fで入職数カ月間指導、その後2Fへ異動し業務に就くという形をとりホーム全体で新人育成に取り組むことができた。	あたりまえの暮らし・その人らしい暮らしを職員全体で意識しながら、業務にあたった。また、住み分けの第一歩とし、2Fに虚弱者の居室を作り介護・看護と連携した援助を行うことができた。 職員の体調不良等あり、フロア間での調整が必要となった。 法令遵守の書式整備は整えることができたが記録の充実には至らなかった。
	サポートステイ	[21年度]平均利用者数11.6人、延利用者数4,250人、実利用者数148人、予防利用実数4人、緊急受け入れ38件、緊急ショート延べ利用日数350日、稼働率116% 稼働率は昨年度と同じだが介護度別で見ると重介護者が若干減少している。理由は定期利用していた方が入院等の理由によりサービス廃止となり、軽介護度の新規利用者が多かった(41件)ためと思われる。また、急なキャンセルも多く期間延長や追加利用の空床調整を柔軟に行った。緊急ショートは、包括支援センターと連携しスムーズな受け入れを行った。また、部署内でフロアをまたいで居室調整や、夜間受け入れにも対応し併設短期入所としての機能を活かした。	21年度もショートステイ業務をセンター業務として位置づけたが、業務の複雑化等により勤務調整に苦慮し業務負担の偏りが生じた。利用者対応は、個別計画書に則り実践したが、個別計画書の見直し作業が滞り次年度へ引き継ぎ結果となった。
連携	看護	1 利用者の健康管理、健康の維持増進、継続的な体調管理を目的とし、年間計画に沿って実施した。定期健診結果の家族への通知、定期的な検査の実施により継続した体調管理が出来ている。 2 医療対応リスクの高い利用者や入退院を繰り返したり、長期療養となる利用者も増し、日々の観察を重視して対応した。入所前後、退院の度ごと、変化時などDr.面談を繰り返して早期予防、早期対応、重度化予防に努め、施設での医療対応の限界の理解を得ながら苑での暮らしを模索していった。 3 各種研修(感染症・褥そう・誤嚥など)を実施した。予防接種の実施や早めの対応、万全の対策を取ったことで新型インフルエンザの流行にも対応できた。	1 Dr.との連携を図り継続的な体調管理ができた。 2 早期発見、早期対応、臨機応変な対応ができた。 3 感染症予防については、重要性の認識が高まっており全員で取り組めるようになった。 4 業務マニュアルの見直しは、継続して行う。
	訓練	ホーム・デイサービス機能訓練者の身体機能の維持・強化、日常生活動作の維持・改善を目的に、個別機能訓練計画を作成し実施した。ホームに関しては、活動量の少ない利用者に対して、グループ訓練を実施した。 安全な環境づくりは、車椅子・福祉機器の管理を行い、新たに、車椅子・車椅子用クッションを福祉機器研究会と連携できた。	1 ターミナル期の利用者に対するチームケアの構築する事が出来なかった。 2 個別機能訓練計画の作成はケアプランと連携して作成できた。
携	食事	食事提供数:年間総合計138,636食。内訳ホーム101,508食(形態別年平均/粥44.3%・キザミ48.4%・ペースト15.2%) ショートステイ10,826食・デイ14,193食・地域デイ3,775食・訪問食事6,580食・見守り配食1,754食 介護予防教室:料理教室(紅葉丘文化センター・白糸台文化センター)2会場/年22回実施/参加者104人。 おいしく・安心・安全な食事づくりを基本とし、五感の楽しみを配慮し、各事業の利用者に適した食事提供とした。新調理の安定により、個別の食事対応や嚥下食の開発など、個人に合わせた食事提供を行うことが出来た。また、「家庭的」「作り手が見える安心」「四季」「体調に合わせた食形態」を可能とする食事提供方法について準備と調整が整った。	1 ホームとデイの配膳方法変更に向けての調整と機材の購入ができた。 2 東京都自主管理認定制度の取得(2月)。 3 個別栄養管理にて栄養改善に繋がった。